



2 イエスの思想

▶ pp.43～46

律法の内面化

昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒（いか）る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚（おろ）か者という者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

（「マタイによる福音書」『新約聖書』5章 21-22）

隣人愛（1）

さて、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを言いこめられたと聞いて、一緒に集まった。そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。イエスは言われた、「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣（とな）り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者

とが、かかっている」。

（「マタイによる福音書」『新約聖書』22章 34-40）

隣人愛（2）

すると彼は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに言った、「では、わたしの隣（とな）り人とはだれのことですか」。イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗（ごうとう）どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。するとたまたま、一人の祭司（さいし）がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乘せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」。彼が言った、「その人に慈悲（じひ）深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。

（「ルカによる福音書」『新約聖書』10章 29-37）

黄金律

求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜（さが）せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があるのか。魚（うお）を求めるのに、へびを与える者があるのか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈（おく）り物を知っているとするれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さないことがあるのか。だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。これが律法であり預言者である。

（「マタイによる福音書」『新約聖書』7章 7-12）



3 世界宗教への展開

▶ pp.46～49

信仰に生きる—パウロ

わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生き